



〔仕入先様への責任と行動〕

サプライチェーンを通して、 CSRを浸透させています。

CSRの活動を通してムラタと仕入先様が
Win-Winの関係になることを目指します。

企業は利益追求だけではなく社会的責任を負っており、購買活動においてバイヤーは、仕入先様から目的物を調達するだけでなく、取引を通して仕入先様にもCSRを意識していただくことが大切だと考えています。啓蒙や定期監査などの管理面だけでなく、Reduce、Reuse、Recycleを仕入先様といっしょに進めることで、適性品質、環境にやさしい生産活動を目指しています。たとえば、梱包材料の再利用や通函の導入は、仕入先様にとっても手間とコストを削減する効果があります。労働条件や安全衛生の向上なども、サプライチェーンを通して浸透させていくことに取り組んでいます。CSRにおいては、ムラタと仕入先様が、ともに持続的な改善を行っていくことが大事です。そのことを、仕入先様の現場を訪問し、改善提案をするなかで伝えてきました。この考え方を経営のなかにすすめることによって、ムラタと仕入先様がWin-Winの関係になる。それが、私たちの目指すところです。

写真右より
無錫村田電子有限公司
業務部 資材管理科

山口 智之
周 筱秋 (Zhou Xiaoci)
陈 素芳 (Chen Sufang)
宣 勇 (Xuan Yong)
王 敏亚 (Wang Minya)
凌 晓波 (Ling Xiaobo)
严 艳 (Yan Yan)
周 梅红 (Zhou Meihong)
丁 海燕 (Ding Haiyan)
周 红 (Zhou Hong)

〔紛争鉱物問題への対応について〕

2010年7月の米国でのDodd-Frank法の成立をきっかけに、世の中で「紛争鉱物問題」が大きくクローズアップされるようになりました。また2012年8月にSEC(米国証券取引委員会)が同法の最終規則を採択して以来、多くの得意先様から「弊社製品における紛争鉱物に関する情報提供」を求められています。弊社におきましては、企業の社会的責任(CSR)の一環としてこの「紛争鉱物問題」を捉え、次のような方針でこの問題に取り組んでおります。

- ①紛争鉱物を管理する仕組みを構築し、弊社製品の紛争鉱物フリーに向けた活動を継続的に推進する
 - ②「EICC/GeSIプログラム」に基づき、使用する部資材の精錬業者を調査する
 - ③精錬業者情報をはじめとした紛争鉱物に関する情報を得意先様に対してタイムリーに発信、共有化する
- 今後も仕入先様および得意先様と密接な連携を取りながら、弊社として企業の社会的責任を全うすべく、この問題に対して真摯にそして確実に取り組んでいきます。